

町地域防災計画

平成7年1月17日の阪神大震災を教訓に、俱知安町地域防災計画の大幅な見直しを平成12年に、平成22年3月には修正を行い、今日に至っております。

町域内で想定される災害の種類別の被害予測や災害発生後の初動体制や避難体制、救援物資協定や自衛隊派遣要請、災害後の復旧・復興体制など、一連の対策を盛り込んでおります。

町において想定される主な災害は次の二つと考えますが、雪害や融雪災害など、この地域の特性である災害にも注意が必要です。

風水害への備え

町は平成21年に全世帯へ『防災マップ』を配布し、災害への周知を行っております。

大雨による川の氾濫などによる洪水を想定し、浸水予測エリアを色分けして、浸水程度の分布がひと目で分るよう工夫しております。

普段から浸水予測地域を確認し、万が一洪水が発生した場合は速やかに浸水予測地域から避難できるように心掛けてください。

地震への備え

平成5年7月12日に発生した「北海道南西沖地震」は、町でも震度4の揺れが観測され、食器などが床に落ちるなどの被害があつたことから、それ以上の震度を想定し、家具やテレビなどの倒れやすい物はしっかりと固定し、高い所には物を置かないなど未然に地震時の被害を受けないよう、対策をとることが必要です。

冬季間は特に火の取扱いに注意が必要です。普段から地震が起きたことを想定し、火の始末等を練習するなど、日頃からの心掛けが二次災害を防ぐことになります。

羊蹄山の噴火は…

羊蹄山については、北海道地域防災計画では、道内の活火山を「常時観測が必要な火山」と「その他の火山」に分類しており、羊蹄山は「その他」に分類されております。また、町地域防災計画では最近数千年間に噴火した証拠がない、活火山の定義で言う活動度が最も低いランクC（火山噴火予知連絡会による）に位置づけられていることから、町地域防災計画での想定はしておりません。

日頃からの備え

■地域の特性を知る

既に配布の『防災マップ』などで、居住場所の被害予測や避難場所、避難経路などを確認しておくことが必要です。

また、災害発生の際や時間によつて生じる問題を考えながら、有効な災害対策を進めることも必要です。

■防災用品

防災用品を考えた時、最初に水や食糧などを思い出しますが、薬や眼鏡など一人一人の持ち物が違いますので、日頃から自分（我が家）に何が必要かを考え、用意しておくことが重要です。

また、持ち出し品と備蓄品に分けることで、水などの重たいものは非常時に持ち出し用と備蓄用に分けて備えておくとうまいでしょう。

■家族の安否確認

携帯電話が普及した現代において、東日本大震災では機能せず多くの人が家族などに連絡できない状況が続きました。

そこで、家族間などと日頃から複数の連絡方法を相談し、災害時に生かせるよう、準備が求められます。また、災害後の集場所を決めておくことも大事でしょう。

原発に関する動き

東日本大震災において、被災した福島原発からの放射能漏れが報道されている中、泊原発3号機の営業運転再開が問題として取り上げられた事は、みなさまもご存知のことと思います。

北海道防災計画では半径10km圏内の4町村（泊、共和、岩内、神恵内）を防災対策重点地域としており、原子力防災会議協議会を構成し、地域防災計画（原子力防災計画編）を作成することとしています。

町では、原発に関する情報の収集・共有の実現が先決課題と考えており、近隣自治体と連携し、北海道などと協議をする方向で進めております。また、町議会では第6回臨時会において、北海道地域防災計画の見直し及び脱原発に向けた意見書を採択し、北海道知事に提出しました。

今後も最新情報が入りしだい、広報紙等でみなさまにお知らせいたします。

北海道地域防災計画（原子力防災計画編）抜粋

第4節 原子力防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲

本道において、原子力防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲は、原子力安全委員会の防災指針において提案されている「防災対策を重点的に充実すべき地域のめやす（EPZ）」を基準とし、泊発電所を中心として、半径10キロメートル以内の地域とする。『以下省略』